

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

西工の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職工の育成」に取り組み、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する大阪一の工科高等学校をめざす

- ものづくり教育により、実践力と社会の技術の進展に対応できる力を身に付けさせるための指導を行い、社会で活躍できる生徒を育成する
- 全ての教育活動において、チャレンジ精神と協働性を醸成する指導を行い、様々な課題を発見し、解決できる力を持つ生徒を育成する
- 実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携など様々な活動に取り組み、意欲ある生徒を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

- (1) 社会人として必要な力を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲と姿勢を涵養するため、基礎・基本の学力を定着させるとともに、専門分野の技術・技能の育成を行う。
- ア 授業内容・技術指導内容・評価の改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
- イ 少人数展開の授業や ICT 機器の活用とともに、公開授業や研究授業を積極的に推進し、教員の協働により学校全体の授業力を向上させる。
- ウ 全ての教育活動において、生徒の協働性を育成するとともに、コミュニケーション力、課題発見・解決する力、プレゼンテーション力を育成する取組みを実施する。
- *生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている」を向上させ、令和7年度には肯定率85%以上を達成する。(R2:77%、R3:86%、R4:87%)
- *生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率80%以上を維持する。(R2:80%、R3:86%、R4:86%)
- エ 各教科・系でキャリア教育を見据えた基礎学力の目標を設定して、基礎学力向上に向けた指導を行う。
- (2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
- *卒業までに3つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。ジュニアマイスター顕彰受賞者15人以上を維持する。(R2:22人、R3:21人、R4:18人)

2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
- 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する。
- *遅刻生徒数1,000以下を維持する。(R2:682件、R3:533件、R4:461件)
- *転学、退学生徒数の合計で前年度比20%減をめざす。(R2:19人、R3:10人、R4:22人)
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、人権感覚や人権意識の向上を図り、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
- *生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を向上させ、肯定率80%以上を維持していく。(R2:84%、R3:89%、R4:90%)
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
- ア 教育相談体制の充実を図り、生活指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
- *学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を75%以上に引き上げ、維持する。(R2:74%、R3:82%、R4:77%)
- イ 三か年を見通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組み就職内定率の向上を図る。
- *生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率85%以上を維持する。(R2:90%、R3:91%、R4:93%)
- ウ 生徒の夢や希望を実現するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る。
- *就職率100%を堅持する、公務員や大学進学決定率100%をめざす。離職率調査において、自己実現のための離職を除く3年以内の離職率30%未満を維持する。(R2:21.9%、R3:30.4%、R4:32%)
- (4) 読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導する。
- ア 授業での図書館利用を推進する。
- イ 図書館の開館時間を確保し、図書の出し数を増やす取組みを行う。

3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動、部活動の活性化を推進する。
- ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
- イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。 *部活動の加入率50%以上を維持する。(R2:52%、R3:65%、R4:56%)
- (2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
- *保護者向け学校教育自己診断「この学校の学校行事(体育祭・文化祭・授業参観等)に参加したことがある」を向上させ、令和7年度までには肯定率65%以上を達成する。(R2:57%、R3:37%、R4:53%)
- *保護者向け学校教育自己診断「学校では、PTA活動は活発である」を向上させ令和7年度までには肯定率70%以上を達成する。(R2:57%、R3:58%、R4:67%)
- *保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について提供の努力をしている」を向上させ令和7年度までには肯定率80%以上を達成する。(R2:68%、R3:85%、R4:89%)
- (3) 生徒に対する防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める。
- *生徒向け学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」の肯定率を85%以上に引き上げ、維持する。(R2:84%、R3:79%、R4:88%)
- (4) 各種のイベントに積極的に生徒が関わり、小中学校への出前授業を実施し、学校の魅力発信に取り組む。
- 産業教育フェア、校外でのものづくりフェスタ等と連携したイベント等への生徒の積極的な参画を推進するとともに、教員による小中学校への出前授業を推進する。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
- *教職員向け学校教育自己診断における校務の効率化に関する項目の肯定率について70%をめざす。
- (2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
- *働き方改革を推進し、時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒) 学校満足度は 81.7%と高い満足度となった (R4 78.4%)。授業では「ICT 機器などを活用して、わかりやすく行われている」92.0% (R4 87%、R3 86%、R2 77%)、「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」87.1% (R4 86%、R3 86%、R2 80%)と着実に向上している。(保護者) 回答率は年によって異なるが 20%から 30%で推移。今年度は約 25%だった。「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」83.7%と 80%を超えている。「授業が分かりやすく楽しいと言っている」70.9% (R4 81%、R3 76%)と低下がみられる。生徒の評価とは逆となっており、今後、担任等との3者面談の機会を利用するなど原因を探っていく。昨年度新設の「1人1台端末を効果的に活用」については84% (R4 79%)と活用が進んでいることがうかがえる結果となった。一方で(教員)「生徒の実態に踏まえ、個別の指導内容・指導方法について工夫・改善を行っている」が77.3% (R4 78%、R3 83%)と低下傾向にあり、研究授業の活性化や働き方改革推進による教員の時間確保等により、教科指導面を含めた学習指導の改善について校内で検討を進めたい。今後も、授業や教科指導、資格・検定指導や生徒のアウトプットを意識した指導等について改善・充実をはかり、満足度を維持・向上させていく。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒) 生活面では「あいさつをしている」97.7% (今年度から新設) と高い。「子どもは、日頃からあいさつしている」(保護者) 91.9%、「生徒は、日頃からあいさつをしている」(教員) 95.6%といずれも肯定率は高い。本校の指導方針をしっかりと理解し取り組みが定着している。今後も維持していく。一方で「遅刻をしないように意識している」生徒が 96.2%となる中で、「子どもが西工に入学してから、中学生の頃と比べて遅刻は減っている」(保護者) 74.4%、「生徒の遅刻は、西工に入学した時と比べて減っている」(教員) 60%と低い。遅刻指導により生徒の意識は非常に高まっているが、まだ保護者や教員からは十分ではないと評価。引き続き遅刻指導を継続していく。「気軽に相談できる先生がいる」80.2% (R4 76%、R3 82%、R2 74%)と相談体制についても肯定的意見は高く、「生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」(教員) 88.9%や「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」(保護者) 93%と高い。「この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」(教員) 77.8%と昨年に比べ26ポイント上昇するなど教員側のマインドにも変化があらわれ、生徒・保護者ともに指導面での信頼感に繋がっていることがうかがえる。いじめ対応では生徒・保護者・教員ともに肯定率が 85%以上となっており、あわせて「先生の指導には納得できる」82.9% (R4 76%、R3 77%)や「指導方針に共感できる」(保護者) 86% (R4 91%、R3 86%)であった。進路指導やキャリア教育面については、(生徒)「自分の将来について考える機会は充実している」93.5% (R4 93%、R3 91%、R2 90%)や、「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(保護者) 95.3%と高い評価を得た。生活面や進路面での指導等については、教職員が一丸となって指導に取り組んでいる成果であり、本校の強みを今後も継続していく。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒)「学校行事(体育祭・文化祭・修学旅行等)は楽しく行えるよう工夫されている」が91.6% (R4 86%、R3 77%)と 90%を超えた。コロナ禍による制限も解除され、学級全体で体育祭と文化祭に取組めたことが高い生徒肯定度につながったと思われる。学校行事・部活動は有意義なものであることを再確認し、より効果的な活性化・充実化の方法を工夫していく。また「この学校の学校行事(体育祭・文化祭・授業参観等)に参加したことがある」(保護者)については肯定率 66.3% (R4 53%、R3 37%、R2 57%)となった。こちらもコロナによる制限がなくなり 13ポイント以上向上した。引き続き保護者が参加する機会を作り、信頼される学校づくりを推進していく。 ・(保護者)「学校は、教育情報について、提供の努力をしている」88.4% (R4 88.7%、R3 85.4%)と高い肯定率を維持している。「必要な情報について周知に努めている」(教員) 84.4% (R4 80%、R3 69%)と努力した成果となっていることがうかがえる。今後も継続して発信していきたい。 | <p>【第1回】(令和5年6月26日)</p> <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アナログの大切さを教えながらのものづくり教育をこれからも続けてほしい。 ・生徒と先生のコミュニケーションについて、関係性を教えながら一丸となって取り組んでほしい。 ・工科高校の卒業生が活躍しており、今後も引き続き社会で活躍できる生徒の育成を続けてほしい。 ・インターンシップの取組みについて、社会経験の一環として引き続き取り組んでほしい。 ・他校ではメディアを使ったPRをおこなう学校もある。メディアや広報誌などをつかったPRを今後もしっかりと続けて志願者増加につなげてほしい。 <p>【第2回】(令和5年10月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの取組みはよい取組みだと思います。引き続き取り組みたくさんの生徒に参加してほしい。 ・全国産業教育フェアへ生徒が参加したと聞き、貴重な経験をしたと思いました。その経験をいかして学校生活に取り組んでほしい。 ・挨拶などの基本的な習慣が指導によってできていると思います。引き続き今後も続けてほしい。 ・出前授業を通してものづくりの機会を設けていることがよいと思います。ものづくりの経験をすることで今後の工業生が増える気がする。 ・工科女子のページなどの取組みは目をひきました。中学生も工業に興味のある生徒はいるので引き続き取り組んでほしい。 ・閉校の発表があったが、今後も先生・生徒ともに、モチベーションをもって頑張ってもらいたいです。多様化する社会ですが、柔軟に対応して社会に還元できる生徒の育成をこれからもおこなってほしい。 <p>【第3回】(令和6年2月8日)</p> <p>○学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学3年間をコロナ禍で過ごしたためか、1年生の遅刻数が気になる。次年度の入学生に期待したい。 ・コロナ禍で、1人1台端末などICT化が進んだが一過性にならないよう今後も取り組みを進めてアナログとの融合化を進めていければよいのではないかと。 ・学校行事をリアルで実施している様子を見ることができて本当に面白かった。体育祭では負けそうでも一生懸命取り組む姿勢に感動した。文化祭においても生徒が楽しそうに準備段階からの取り組みの様子が感じ取れた。保護者からの肯定的な意見が多かったことはよかったと思う。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 [R4年度値] | 自己評価 |
|----------------------|---|---|---|--|
| 1 確かな学力と学びに向かう力を育 | (1)学力の定着と学びに向かう姿勢の育成 ア キャリアガイダンスをPBL導入科目として取り組み、「自己肯定感の向上」の醸成をめざす。 イ 実習・授業内容を改善し、生徒の興味関心を高める。 | (1) ア 「キャリアガイダンス」の中でグループワークやペアワーク等を導入し、またタブレット端末を活用し「多様な専門性を持つ人との結びつき」や「自己肯定感を高める」取り組みを行う等、きめ細やかに学習することで生徒自身の自発性や関心、能動性を引き出し、答えにたどり着くまでのプロセスが大切であるというPBLにつながる考え方を学ばせていき、プレゼンテーション能力を高める。 イ PBLの観点を各教科の授業に落とし込み、主体的・協働的に課題を発見し、解決する力の育成を行う。1年生ではキャリアガイダンス、2年生では総合的な探求の授業、そして3年生の課題研究へと繋げていく。 | (1) ア キャリアガイダンスでのアンケートによる『「答えにたどり着くまでのプロセスの大切さ」を理解した』の肯定的意見について 90%以上をめざす。[96.7%] イ PBLの研究と課題研究等での教科横断型の授業に取り組む。新しい授業の取組みの満足度 80%以上をめざす [84.2%] | (1) ア アンケートでの肯定率 91.3%となった。計画的に授業を展開し、生徒の興味関心・自発性や能動性が引き出せた。生徒の感想でも「日々の努力の積み重ねが大切と感じた」などの意見が出ている。(○) イ 教科横断型の授業について、1年生キャリアガイダンス、2年生の総合的な探求の授業で実施できている。アンケートでの満足度 91.3% (◎) 今後は3年生の課題研究での取組みに繋げていく方法を研究していきたい。 |

府立西野田工科高等学校

| | | | | |
|---|---|---|---|--|
| 成 す る 学 校 | <p>ウ 組織的な公開授業及び研究授業。</p> <p>エ コミュニケーション力の育成を図る。</p> <p>オ 1年生の基礎学力向上及び将来の職業へ繋がる専門を学習する大切さを醸成する取り組みを推進する。</p> <p>カ 無線LAN整備 ICT授業の促進。</p> <p>(2)</p> <p>ア 資格・検定等への積極的な挑戦と、その取得・合格をめざした指導を行う。</p> <p>イ 外部連携による体験活動の推進</p> | <p>ウ 授業改善(ほんとうによくわかる授業)の取り組みとして、ICT機器の活用やタブレット端末等を活用し、また教科横断型の授業の推進を図るため、授業見学や研究授業などを計画する。 実習の指導方法・評価の改善に組織的な取り組みを行い、生徒の満足度を向上させる。</p> <p>エ プレゼンテーション力育成のために、課題研究発表大会をはじめ授業や実習での発表機会を取り入れる。</p> <p>オ 英数国での少人数・TTでの授業を行うとともに、ガイダンス科目ではタブレット端末を活用し、系・専科選択のための情報提供を十分に行い生徒のキャリアアンカーの醸成を図る。 また、基礎学力調査を活用した、生徒の学習意欲の向上にも取り組む。</p> <p>カ 教室の無線LAN整備を図り、ICT授業の促進を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 資格取得、各種検定試験の合格、各種コンテストへの応募や競技会等への参加を積極的に推進していく。</p> <p>イ 企業等との連携授業や校外での実習・見学・体験活動等を実施する。</p> | <p>ウ 研究授業回数12回〔3回〕 授業満足度90%以上をめざす。〔87%〕</p> <p>エ 課題研究発表大会での肯定率90%以上をめざす。〔88%〕</p> <p>オ 基礎学力調査による学習に向かう姿勢ができていない生徒80%以上をめざす。〔89%〕</p> <p>カ 学校教育自己診断(生徒)「ICT機器を活用した授業」平均80%以上〔87.4%〕</p> <p>(2)</p> <p>ア 資格・検定の一人当たりの受験率115%以上をめざす。〔118%〕コンテスト等参加者150人以上をめざす。〔50人〕ジュニアマイスター顕彰受賞者18人以上を維持する。〔18人〕</p> <p>イ 実施件数100件以上を維持する。〔90件〕</p> | <p>ウ・授業見学週間を1回設定。また、研究授業は初任者、10年目の教諭で4回実施した。 学校教育自己診断による生徒授業満足度92%となり、ICT機器の活用やグループワークの導入など多様な授業改善の工夫が成果につながった(◎)</p> <p>エ・2/8午後の課題研究発表会では、学校運営協議会委員にも参観していただき助言をいただいた。 課題研究発表大会での生徒肯定率96.1%(◎)</p> <p>オ・英数国で少人数・TTでの授業は計画的に実施できている。1年生で基礎学力調査による学習に向かう姿勢ができていない生徒は86.0%であった(◎)</p> <p>カ・教室の無線LAN整備は完了し、教員はICT機器を活用した授業に取り組んでいる。 生徒学校教育自己診断(項目⑤)肯定率84.5%(○)。</p> <p>(2)</p> <p>ア・資格・検定の一人当たりの受験率102% ・コンテスト等参加者53人 ・ジュニアマイスター顕彰受賞者は12人であった。(△) 目標とする18人以上を維持できなかった。検定料の値上げや在籍生徒数の減少による影響と思われる。</p> <p>イ・実施件数30件(△) これまでのコロナ禍の影響等で積極的に外部活動への準備ができなかったことが影響している。引き続き次年度へ向けて準備をしっかりと行っていきたい。</p> |
| 2 規 範 意 識 を 高 め 、 夢 と 志 を 持 ち 、 豊 か な 人 間 性 を 育 成 す る 学 校 | <p>(1)規範意識を醸成する生活指導の取り組み</p> <p>ア 挨拶運動・遅刻防止指導を推進</p> <p>イ 5Sの推進、校内美化運動の推進</p> <p>(2)発達段階に応じた人権教育の充実</p> <p>(3)生活指導部と連携した教育相談体制の充実</p> <p>(4)計画的な進路指導の推進</p> | <p>(1)</p> <p>ア 挨拶・遅刻指導・スマホ等指導、通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>イ 全ての教育活動で、ものづくりの基本となる5Sを徹底し、学校環境の改善に取り組む。</p> <p>(2)学年別人権教育の充実を図る</p> <p>ア、学年に応じた人権HRを企画し、生徒に「人権について考える」を意識する授業を実施する。</p> <p>イ、年間を通して人権を意識するため、定期的に入権通信(仮称)を作成し、掲示・配付する。</p> <p>(3)教育相談活動を充実させ、安全安心な学校環境をつくる。SC、SSWとの連携による生活指導体制を構築し、個々の生徒の実態に応じた指導を実践する。</p> <p>(4)卒業生や外部講師を招聘し、進路講演会等を行い、またキャリアパスポート等を活用し進路指導の充実を図り、就職率100%を堅持するとともに、公務員や大学進学を希望の生徒が100%合格できるよう指導する。 離職率調査を実施し、進路指導に活かす。</p> | <p>(1)</p> <p>ア遅刻数550件以下を維持する。〔461件〕 転・退学者15件以下をめざす。〔22件〕</p> <p>イ定期的な整理・清掃活動の実施。20回〔16回〕 学校環境の満足度80%以上を維持する。〔85%〕</p> <p>(2)生徒人権教育の実施回数3回〔4回〕 取組みに対する肯定率85%以上を維持する。〔89.6%〕</p> <p>(3)学校教育自己診断(生徒)「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」80%以上をめざす。〔76.5%〕</p> <p>(4)離職率調査を実施し3年後の(自己実現の離職を除く)離職率30%未満を維持する〔32%〕進路情報を広く生徒に周知する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア・遅刻数711件(△) ・転学者4件・退学者15件となり、合計19件(△) 生徒の遅刻防止に対する意識は96.2%と非常に高い。一部の生徒が遅刻累積している。家庭と連携しながら継続して指導していく。転退学の防止については、キャリアガイダンスや担任等からの面談等を通じて、生徒に寄り添い進路実現を図る指導を実施していくと同時に、中学校への情報発信も強化し入学前からのミスマッチをなくしていきたい。</p> <p>イ・定期的な整理・清掃活動は8回実施。(○) ・学校教育自己診断(項目⑭)の肯定率91.6%(◎)</p> <p>(2)・生徒人権教育の実施回数は5回実施(○) ・学校教育自己診断(項目⑫)での肯定率92.0%(◎) 学年集会や人権HR等を計画的に実施することで、生徒に人権意識を醸成することができている。</p> <p>(3)・学校教育自己診断(項目⑦)の肯定率80.2%(○) 年々相談が必要な生徒が増加している中、教育相談体制を維持すると同時に教職員のカウンセリングマインド(項目⑤)77.8%のさらなる向上をめざしたい。</p> <p>(4)・3年後離職率26%(○) 一昨年度より、生徒に調査するのではなく企業に調査を実施方法する方法に変えて、昨年度からはgoogle formsで集計を行っており、今年度の企業の回答率は84%〔82%〕</p> |

府立西野田工科高等学校

| | | | | |
|--|--|--|---|--|
| | (5)読書活動の推進 | (5)図書館の利用を促し、読書の大切さを指導する ア 授業での図書館利用を推進する。 イ 図書館の開館時間を確保し、図書の貸出し数を増やす取り組みを行う。 ウ 生徒の居場所づくりとしての役割を意識し運営する。 | (5) ア 授業での利用数 50 回以上を維持する。[54 回] イ 生徒向けの本の貸出冊数を 10 ポイント増加させる。[22 冊] ウ 生徒の本貸出利用人数を 10 ポイント増加させる。[372 人] | (5) ア・授業での利用数 1 月末時点で 42 回 (○) イ・生徒向けの本の貸出冊数は 1 月末時点で 15 冊 (○) ウ・生徒の本貸出利用人数 1 月末時点で 183 人 (△) 在籍生徒数の減少が影響しているが、引き続き情報発信をしていく。 |
| 3 安全 安心で 魅力ある 学校 | (1)生徒活動の活性化 ア 学校の広報活動に生徒が主体的に関わるようにする イ 部活動が活性化するよう学校全体で取り組む (2)開かれた学校づくり 授業公開を行うなど、PTA 活動や学校運営協議会等の充実を推進 (3)防災等訓練等を通して生徒の意識の向上を図る (4)外部イベントへの積極的な参加と情報発信を行う | (1) ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。 イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進するまた、部活顧問の長時間勤務の解消のために、負担均衡を図り長時間勤務者の減少を図る。HP にも部活動の状況を発信していく。 (2) ア 年 2 回の公開授業を継続するとともに、オンライン等を活用し PTA 活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。 イ 学校支援クラウドサービスを活用するために保護者用アカウントを作成し、オンラインによる連絡を推進し学習支援クラウドサービス登録率 80%以上をめざす。 (3) 地震、津波などの災害を想定した防災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高める。教職員の対応マニュアルを見直し、学校の危機対応力を高める (4)外部イベントに生徒が関わるように指導するとともに、テレビ学校説明会や出前授業等により学校の魅力を HP にも発信する。 ア 地域のものづくりに関するイベント等へ参加を推進する。 イ 小・中学校への出前授業等に取り組み、学校の魅力を発信する。 | (1) ア 体験入学や学校説明会に関わる生徒数 80 人以上 [50 人] イ 部活動加入率 55%以上を維持する。[56%] 全教員が部活動顧問に就く体制を整える。 (2) ア 学校教育自己診断(保護者)「学校の学校行事に参加したことがある」を 10 ポイント増加 [52.7%] 学校教育自己診断 (保護者)「学校では、PTA 活動は活発である」を 10 ポイント増加 [67%] イ アカウント登録率 80%以上、学習支援クラウドサービス登録率 80%以上 [72%] (3) 学校教育自己診断 (生徒)「地震や火災等への行動について理解している」80%以上を維持する。[87.7%] (4) ア 各種イベント等への生徒参加を奨励する。[11 回] イ 教員による小中学校への出前授業等の企画を行う。[10 回] | (1) ア・体験入学や学校説明会に関わった生徒数は約 60 人となった(△) イ・部活動加入率 55%(○) 生徒の減少が続く中、部活動の実施が厳しいものとなってきているが、加入率の堅持に努めたい。 (2) ア・保護者肯定率(項目⑩)は 66.3%で約 15 ポイント増加(◎) ・(項目⑫)「PTA 活動は活発である」保護者肯定率 80.2%で 13 ポイント増加(◎) イ・アカウント登録率 80%、学習支援クラウドサービス登録率 80%(○) 保護者のオンラインによる連絡意識が向上し入学生の保護者は高い登録率となった。今後も周知していきたい。 (3) 火災を想定した消防避難訓練(6 月)、1 年生対象に事前学習(6 月)、地震による津波避難訓練(9 月)を実施。 ・学校教育自己診断での防災に対する意識度(項目⑬)は 89.0%(○) 教職員間では職員会議で機会をとらえて防災について情報共有している。 (4) ア・各種イベント等への生徒参加は 11 回(○) 生徒会や系の生徒(2・3 年生)が積極的に参加してくれた。引き続き生徒の活躍場面を作っていく。 イ・教員による小中学校への出前授業 7 回(△) 12 月に近隣中学校へ再度、体験授業の企画を行った。 |
| [新規] 4 校務の 効率化と 働き方 改革の 推進 | (1)ICT による校務の効率化 (2) 労働安全衛生管理体制の充実 | ・ICT 機器を有効活用し教科等における教材の共有化を図る。 ・教育支援クラウドサービス等を用いた事務処理の効率化と会議のスリム化を図る。 ・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 | ・ 教員向け学校教育自己診断結果における ICT 活用による校務軽減の肯定率 70%以上。[51.4%] ・働き方改革を推進し、時間外勤務月 80 時間以上の職員をなくす。[0 件] | (1)・教員向け学校教育自己診断結果における ICT 活用による校務軽減(項目⑬)の肯定率 62.2%であった。目標にはやや届かなかったが、昨年より約 11 ポイントの増加(○) (2)・時間外勤務月 80 時間以上の職員 4 件(△) 部活動指導で特定期間に業務が集中する職員がおり、月の時間外勤務人数の増加となった。今後も職員会議や個別面談とあわせて、時間外在校時間縮減に取り組んでいく。 |